
Ordinary sweethearts

成瀬寛人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Ordinary sweethearts

【NZード】

N9602D

【作者名】

成瀬寛人

【あらすじ】

どこにでも居るような、普通の恋人達のある出来事の話です。

私と彼は学生の頃
ただ席が近かつたという理由で
仲良くなりました。

あの頃は一緒に居る事になるなんて全く考えられませんでした。

ただの仲良いクラスメイトでも
付き合い始めるとな故か馬鹿みたいに大切な人になります。
お互いなんで好きかわからないくせに
とても強く魅かれ合つて
いつしかすべてを捧げて愛し合います。

そんな感じにでも居るような、普通のカップルです。
学校が終わったら会う
ない日や代休は一緒に出かける
学校でも時々話したりする
もちろんメールは毎日ずっと
そんな日々がずっと続くと思いました。
結婚の約束も何度もして、愛し合いました。

しかし、私は愛した人を忘れて他の人を愛せる生き物みたいです。

そう、好きな人が別に出来ました。

そんな日の出来事の話です。。

「最近なんかちよつと変わった気がするナビへ。」

『「ひん、別に何もないよ』

「俺の「じと變じへる。」

『「…」』

「なんか…やつぱつ變だよ」

『「じめんなさい。』

「何か悪い事したの？」

実は私はその好きな人ともつ一緒に歸つたり…キスまでしてしまつたのです。

『なんか…好きなのがわからなくなつて…』

これが精一杯の「まかしでした

「無いぢやつたんだよ。」

『「じめんなさい…」』

「なんだよ、何回も謝るなよー。」

『「じめんなさい…』

「なんなの？浮氣でもしてんの？」

僕は浮気は絶対してない自信があつたから、『こんな事を言いました。

『…気になる人が出来ただけ…』

「…えつ？…！」

僕は身体が浮くような…この心臓が浮くような…恐怖とか不安とか何か胸が苦しく浮くような感覚にとらわれました。

「ふ、ふざけんなよ…！昨日まで、愛してるって言つてただろ…！」

僕は冷静さを完全に失つてました

『…あたし…帰るね。ごめん…』

私は一秒でも早く逃げたくて、走つて出て行きました。

「おい、待てよ…！」

僕はおびえる身体で追いかけました。

私は彼の家の階段をかけ降りて、いつも一人で手をつないで帰る道を走つて行きました。

私は彼が追いかけて来てくれることを期待し、追いかけて来ることに喜んでました。

そして当然彼は追いついて来ました。

「おこ、どうゆうひどいだよ…」

『…あたしの事なんて忘れて…』

つこ言つてしまつたこの言葉…

「…。」

僕は魔法にかけられたかのよつて固まつました。

そして私はかけ足で帰りました。

僕は無意識で追いかけました

私は彼が追いかけて来てるのをわかつて居ながら、振り向きませんでした。

ドッ…！

鈍い音がしたので、私は反射的に振り向きました。

そしたら彼が居ません

私は彼が諦めたのかと思つて悲しんで目を背けたら

何故か向こう側に彼と同じ格好をした人がうつぶせでいました

『…？』

何が起きたのかわかりませんでした。

私は胸騒ぎとともに身体が浮くような感覚にとらわれました

…何が起きたか理解したのです。

彼は私を追いかける事で周りが見れずに
引かれたのです。

わずか…数メートル先で、彼は私の手の届かない場所まで行つてしまつたのです。

私は…この時気がつきました。

彼が世界で一番…私の生涯でもつとも大切で…愛してゐる人だと
しかし…もう過ぎました

私は今日が最後だと思つていませんでした。

甘えて居たのです。

あとからなんとでもなると…

だつて…こんなにも、最後が身近にあり…ましてや彼がそんな事になるなんて全く考えられませんでした。

あまりにも取り返しのつかない後悔でした…

人はどうして、大切なものを失つてから気が付くのだろう?

もし…もし大切な事をわかつていれば…

もし…もしあなたと過ごす日々が明日終わる事を知つていれば…

そう…わかつてさえいれば…つと。

後悔の渦でした。

もし…あなたが大切だとわかつていたなら
どんなに甘い誘惑にも…惑わされなかつた…

もし…あなたと過ごす日々が明日終わると知っていたなら
どんな些細な事にも幸せを感じ…大事に過ごしたのに…

過ちに気が付いた時、まだ物語が続いてる事に気が付いていたら
私はもつと早くあなたの胸の中で泣き続けて…ごめんなさいと心か
ら言つたのに…

大切な人が思い出になる事がこんなに辛い事だと知つていたら
どんな時もあなたのそばですつと笑顔で居たのに…

想つてるだけでは伝えきれないとわかつていれば
一生かけて心から伝えたい想いを…伝えたのに…

当たり前の日々がもう戻らない日々になる事を知つていれば
心から感謝して…あなたにありがとうと笑顔で言えたのに…

もし…もしもあなたとまた会えるなら

真つ先にかけより

強く抱き締めて

いじめたい

『すつと一緒に座よつね。』

(後書き)

読んでいただきありがとうございます。誰にいつ何が起きたてもおかしくありません。皆様が日々を大切にしていたければ幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9602d/>

Ordinary sweethearts

2010年12月30日14時34分発行